



ポ プ ラ

学校教育目標「志に生きる」やる気 おもいやり たくましさ
生徒数 545名 教職員数 40名

あいさつは心の言葉

校長 結城 正弘

平成30年がスタートして、早くも1か月が過ぎ、いよいよ2月となりました。まだまだ、寒い日が続きますが、生徒達は元気に登校しています。そして目をみて元気に「おはようございます!」と挨拶してくれます。3年生は、私立高校に決まった人達も徐々に増えてきています。県立高校の受検まで約1か月。県立高校を第一希望としている皆さん、ぜひ追い込みをかけて頑張ってください。

さて、2月3日は節分です。多くのご家庭で「豆まき」をして、前年の邪気を祓う（はらう）ことと思います。この節分は、本来季節の移り変わる時の意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日を指していました。特に、立春が一年の初めと考えられていたことから、次第に「節分」というと春の節分を指すものとなりました。

節分や立春のある2月に、一年の初めということで、改めて心の在り方を見つめ直してみたいと思います。「**おはようございます。いただきます。ごちそうさま。いってきます。こんにちは。さようなら。ただいま。おやすみなさい。すみません。・・・等々**」

これらはみな、心を言葉に表したものです。私たちは、食事の時に「いただきます。ごちそうさまでした。」と、挨拶するのが礼儀であると躰けられてきました。ところで、馳走（ちそう）という意味については、「馳」は馬が速く走るという意味があり、「走」は走るですから、走りに走ってという意味になります。昔は客人をもてなすために、川に魚を捕りに行ったり、山に落（ふき）や茸（きのこ）、木の実などを採りに行ったりと、走り回って準備したところから、この「馳走」という言葉が生まれました。「ご馳走さまでした」という挨拶は、「私のために、こんなに走り回っておいしい料理を食べさせてくれて、ありがとうございます。」という感謝の作法なのです。また、「すみません」という言葉も、漢字で書くと「澄みません」となります。「澄む」の反対語は「濁る」ですから、青空のように清く澄んだ心を濁らせてしまって、本当に申し訳ないというお詫びの気持ちをこめた言葉が「澄みません」なのです。ぜひ、何か悪い事をしてしまって迷惑をかけてしまったら、素直に、心から「澄みません」と言える人になってほしいものです。

挨拶する方もされる方も、気持ちよくなるのは、**あいさつが心の言葉**だからです。優しい心からは、優しい言葉が生まれます。**言葉は心の持ち物**なのです。挨拶をしっかりできる人は、心が一杯詰まっている人で、心はそのまま体と一緒に良い顔になり、良い態度として現れてきます。久喜中学校の生徒の皆さんが「良い顔、良い態度」なのは、心が豊かに育ち一杯詰まっているからだと思います。「あいさつ日本一」の学校を目指して、**メリハリ**のある生活の中で**一層心を鍛え育んで**いきましょう。

